

江南団地

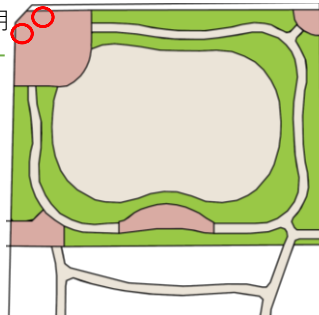
ふれあい広場 植栽ハンドブック



ヒトツバタゴ

分布

【一葉たご】モクセイ科ヒトツバタゴ属 花期：5月



別名ナンジャモンジャ。自生地でも数が少なく、見る機会がまれで、名前がわからなかったのが別名の「何じゃ、物じゃ」の由来。

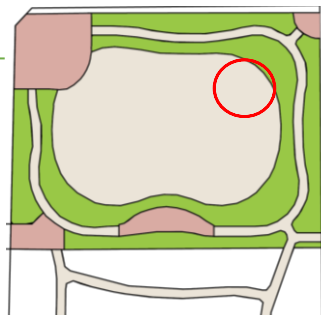
花期には細長く4つに裂けた白い花が枝先に多数咲き、木全体が真っ白になる。秋には黒紫色で楕円形の実ができる。

ユーリオプスデージー

分布

【ユーリオプスデージー】キク科ユーリオプス属

花期：11～5月



晩秋から春まで、マーガレットのような黄色い花を長期間咲かせる。葉や茎に細毛が生えているので、全体的に灰白色に見える。

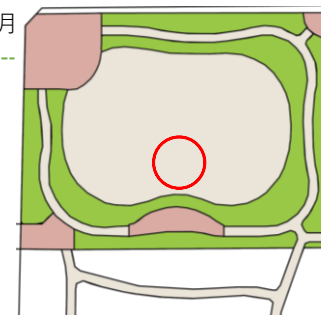
幼苗のうち草花のように見えるが実は樹木であり、数年でゴツゴツとした太い幹になる。

シモツケ

分布

【下野】バラ科シモツケ属

花期 5～8月



下野の国（現在の栃木県など）で最初に自生種が発見されたのが和名の由来。

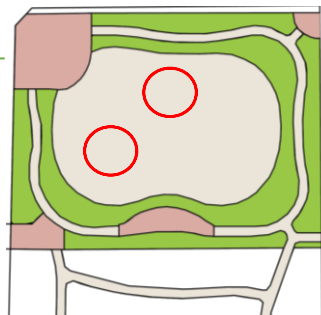
花期には直径3～6mmほどの小花100個以上が、小枝の先でブーケ状に集まって咲く。花色は淡い紅色、薄紫、白など。

ヤマブキ

【山吹】バラ科ヤマブキ属

花期：4～5月

分布



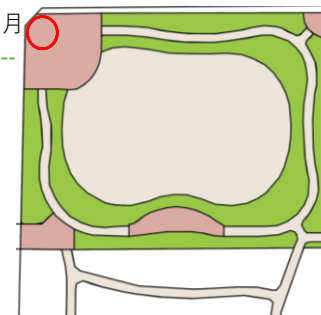
「山吹色」の語源になった花で、春になると枝に沿って深みのある黄色い花を咲かせる。同じような時季に咲く他の黄花より濃厚な色合いで優雅な印象がある。

細い水滴形で鋸歯がギザギザの葉は、葉脈が基部から3本に分れる。

ヒューケラ・キャラメル

【壺珊瑚】ユキノシタ科ヒューケラ属 花期：7～9月

分布



属名の「ヒューケラ」の由来は18世紀のドイツ人医師兼植物学者（Johan Heinrich von Heucher）の名前にちなんでいる。

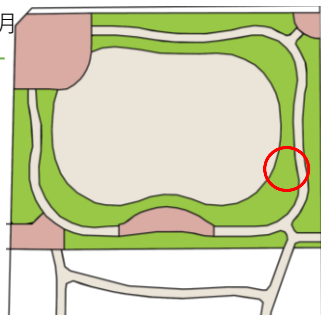
茎葉に毛がありビロードのような質感をもっており、毛があるため葉色がややボヤけた印象を感じさせる。

花は鐘型で白色から薄橙色の花を咲かせる。

ヒガンバナ

【彼岸花】ヒガンバナ科ヒガンバナ属 花期：9～10月

分布



草全体に毒をもつので、水田の畦や墓地に植えられ、田や畑を荒らす生き物を近づけない目的に利用された。

開花時期は秋の彼岸前後で、花茎の先端に鮮烈な赤い花が5～7輪まとまって咲く。

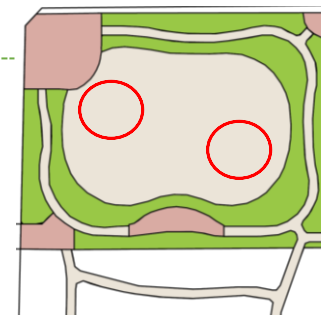
花が枯れると深緑色の線状の葉が現れる。

ユキヤナギ

【雪柳】バラ科シモツケ属

花期：4月

分布

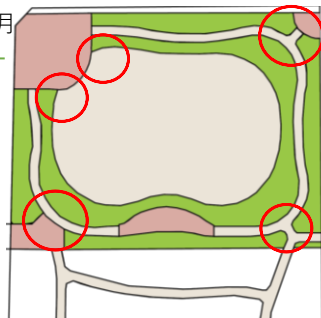


春になると、シダレヤナギのように垂れた枝に小さい花がびっしりと咲き、まるで雪が降り積もっているように見えることが和名の由来。また、小さく白い花が集まるのを小米（割れた米粒）に見立て、コゴメバナという別名がある。

アガパンサス

【紫君子蘭】ヒガンバナ科アガパンサス属 花期：5～8月

分布



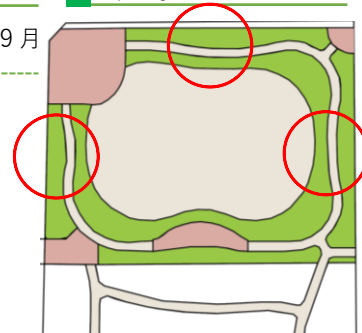
学名のアガパンサスはギリシャ語で愛を意味する「agape」と花を意味する「anthos」が語源となり、愛らしい花の美しさからこの名前が付けられた。

最初はネギ坊主のような形をしているが、梅雨時に花火のような放射状の涼やかな青い色の花を咲かせる。

ハマユウ

【浜木綿】ヒガンバナ科ハマオモト属 花期：7～9月

分布



主に海岸線に群生する。

和名の由来は、花が神事の時に榊につけ垂れさげた木綿（ゆう）に似ていることからつけられた。

花は日没後に咲き、強い香りを発する。

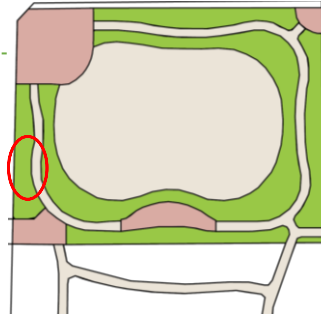
種子は径2cmほどでコルク質の皮に被われているので水に浮く。

ツワブキ

分布

【石蓆】キク科ツワブキ属

花期：10～12月



一説によると艶葉蓆（ツヤハブキ）から転じてツワブキと呼ばれるようになった。

花は株の中心から出て、先端に花径3cm前後の黄色い花を咲かす。

葉柄はフキと同様キャラブキ等にして食べられる。

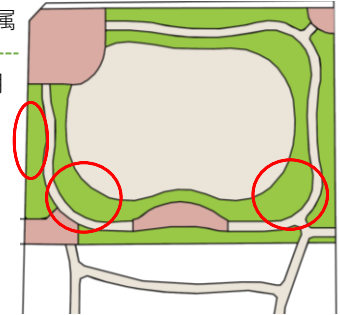
あぶった葉は湿疹や火傷等に効果があり、かつては薬草としても重宝されていた。

アベリア・ホープレイズ

分布

【アベリア・ホープレイズ】スイカズラ科アベリア属

花期：5～10月



【別名】ツクバネウツギ

葉に黄白色の斑入りの模様ある。

矮性品種（背が高くなりにくい性質）で、手入れがしやすい。

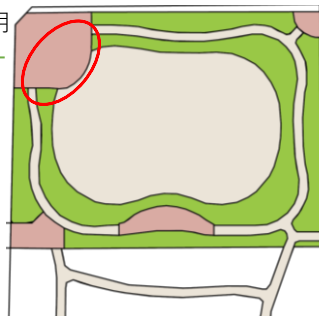
春から秋の長きにわたり、白やピンク色の小さな花が次々と咲き続ける。

イベリス・センペルウィレンス

分布

【常盤薺】アブラナ科イベリス属

花期：4～6月



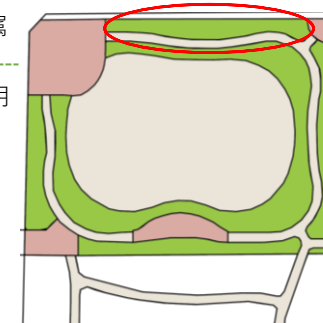
「イベリス」は多く自生していたイベリア半島に由来する。
地面を覆うように横に広がる。
陽に向かって花茎が曲がることからマガリバナとも呼ばれる。
4枚の花弁を持つ白い小花（外側2枚の花弁が大きく、内側2枚は小さい）が集合して花を咲かせる。

レウコトエ・アキシラリス

分布

【レウコトエ・アキシラリス】ツツジ科イワナンテン属

花期：5～6月

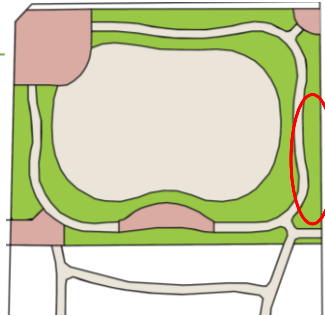


【別名】セイヨウイワナンテン・アキシラリス
新芽が赤く、緑と赤のコントラストを楽しむことが可能。
細長い壺型の白い小さな花を咲かせる。

シラー・ペルビアナ

【大蔓穂】キジカクシ科ツルボ属 花期：5～6月

分布



「ペルビアナ」はペルー原産という意味だが、ペルーには自生しない。

→17世紀にスペインで発見され、イギリスに持ち帰った際に「The Peru」という名前の船に乗っていたことが由来。

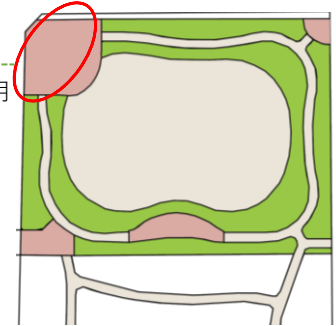
花は基本紫色だが、白色の品種も近年流通するようになっていく。

オキザリス・アルティクラタ

【芋片喰】カタバミ科カタバミ属

花期：5～7、9～11月

分布



【別名】フシネハナカタバミ（節根花片喰）

和名のイモカタバミは根の上部に芋状の塊茎を作ることから。

→節根花片喰も同様の由来。

株がドーム状に広がり、密生後は雑草の発生も抑制できる。

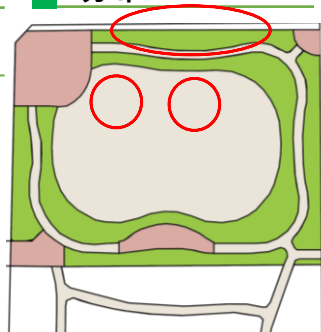
花の後にできる実はさく果（熟すと下部が裂け、種子が散布される）である。

オタフクナンテン

【お多福南天】メギ科ナンテン属

花期：6月

分布



【別名】オカメナンテン

「難を転ずる」縁起のよい木として庭に植えられてきたナンテンの矮性品種（背が高くなりにくい性質）である。

→ナンテンと比較すると花も実もつきにくい。

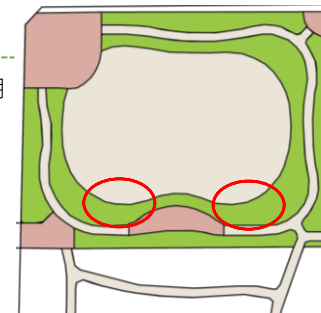
小ぶりで葉に丸みがあり、ふくよかな形なので「オタフク」と呼ばれる。

クリスマスローズ

【クリスマスローズ】キンポウゲ科ヘルボルス属

花期：12～3月

分布



12月のクリスマス頃にバラのような花が咲くことが由来。

→2～3月をメインに花を咲かす園芸種もある。

花びらに見えている部分は大きながく片である。がく片は散りにくいため、長期間にわたり花を楽しむことができる。